

〈看護学科〉

基礎看護学

教授：芳賀佐和子	基礎看護学
准教授：平尾真智子	基礎看護学
講師：菊池麻由美	基礎看護学
講師：羽入千悦子	基礎看護学

教育・研究概要

I. 教育方法・評価に関する研究

1. フィジカルアセスメントの教授法

全身の系統的アセスメントの講義や演習の教授法に関する研究を進展させ、臨床実習でのフィジカルアセスメント教育方法について、研究を継続している。

II. 看護援助に関する研究

1. ストーマ患者への援助に関する研究

ストーマ増設患者のストーマ長期管理に関して、皮膚色素沈着を評価の視点として研究を行った。

2. 排泄への援助に関する研究

トイレとベッド上での排尿時の自律神経活動とベッド上で排尿があった場合となかった場合の自律神経活動の違いを、心拍変動を用いて明らかにした。

III. 看護診断に関する研究

1. NANDA 看護診断への新しい診断名の提案を目指し、「腹部膨満感」という患者現象の同定を継続して研究している。

2. 看護診断プロセスへの、中範囲理論“症状マネジメント”の活用について研究を継続している。

IV. 看護歴史に関する研究

1. 高木兼寛の健康教育観について、大正期の臨時教育会議における師範・実業教育に関する発言内容から明らかにする研究を継続している。

2. 東京慈恵医院における初期の看護体制について明らかにした。

3. ベリー来航時に平野重誠が記した救急書について明らかにした。

〔点検・評価〕

基礎看護学領域としては、「看護基礎教育課程で

のフィジカルアセスメント能力の育成」や「症状マネジメント教育のための検討」を継続して研究している。今後はさらに「看護技術」についてもテーマを広げ協力しながら研究を進めていきたい。

「看護援助」「看護診断」「看護歴史」などそれぞれが研究テーマをもち継続的に研究を行っている。看護学の発展や方向性に示唆を得るための看護歴史研究や、本学のスクールミッションにも関係する慈恵の看護歴史研究も継続して行っていきたい。

研究業績

I. 原著論文

- 1) 江村（青木）紀子. トイレとベッド上での排尿時の自律神経活動の比較. 日看技会誌 2009; 8(1): 58-65.

III. 学会発表

- 1) 芳賀佐和子, 平尾真智子, 蝦名総子. 高木兼寛の健康教育観に関する研究 (第4報) - 臨時教育会議での女子教育改善に関する発言内容から - . 第110回日本医史学会. 佐賀, 6月. [日医史誌 2009; 55(2): 204]
- 2) 蝦名総子, 芳賀佐和子, 平尾真智子. 東京慈恵医院における初期の看護体制. 第22回日本看護歴史学会学術集会. 東京, 8月.
- 3) 菊池麻由美, 羽入千悦子, 芳賀佐和子, 平尾真智子, 青木紀子. 臨床実習におけるフィジカルアセスメント実施の分析(第一報) 実施のきっかけに焦点をあてて. 日本看護学教育学会第19回学術集会. 北見, 9月. [日看教会誌 2009; 19 (学術集会講演集): 111]
- 4) 羽入千悦子, 菊池麻由美, 芳賀佐和子, 平尾真智子, 青木紀子. 臨床実習におけるフィジカルアセスメント実施の分析 (第二報) アセスメント内容に焦点をあてて. 日本看護学教育学会第19回学術集会. 北見, 9月. [日看教会誌 2009; 19 (学術集会講演集): 111]
- 5) 杉田里絵, 棚橋泰之, 山田紋子, 菊池麻由美, 中藤三千代, 津田泰伸, 高原静子, 小泉純子, 下舞紀美代, 黒田裕子. 「腹部膨満感」に関する看護診断の同定についての研究 [第三報]. 第15回日本看護診断学会学術大会. 福岡, 6月.
- 6) 中村節子 (看護史研究会), 平尾真智子. ベリー来航後に平野重誠が著した救急書『軍陣備要救急摘方』. 第110回日本医史学会. 佐賀, 6月.
- 7) 平尾真智子. 『大正心脩大蔵経』の仏教教典にみる「看

護」の文字の使用 中華電子仏典協会の電子テキストから、第110回日本医史学会、佐賀、6月。

- 8) 羽入千悦子, 江川安紀子, 穴澤貞夫, 吉本大樹, 諏訪勝仁, 中島紳太郎, 大村裕子 (東京オストミーセンター). ストーマ皮膚の長期管理に関する研究. 第27回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 京都, 2月. [日ストーマ・排泄会誌 2010; 26(1): 91]

IV. 著 書

- 1) 菊地麻由美. 第7章: 統合的中範囲理論 症状マネジメントモデル 事例編. 黒田裕子監修. 看護診断のためのよくわかる中範囲理論. 東京: 学習研究社, 2009. p.325-33.

V. その他

- 1) 羽入千悦子, 菊地麻由美, 芳賀佐和子, 平尾真智子, 青木紀子. 基礎看護学実習におけるフィジカルアセスメント実施状況の事例分析. 慈恵医大誌 2009; 124(5): 232-3.
- 2) 芳賀佐和子, 羽入千悦子, 福井幸子, 佐藤麻由美. 眼・耳・鼻・胸腹部のフィジカルアセスメント. 日看技会誌 2009; 8(1): 54-5.

看 護 管 理 学

教 授: 大石 杉乃 看護管理学 看護情報管理学 看護歴史学

教育・研究概要

I. 看護情報管理学に関する研究

研究の目的は、47都道府県の1974年から2006年までを対象にし、都道府県における看護師学校卒業生と准看護師学校卒業生の総数における看護師学校卒業生数の比率が高くなること（以下、教育の看護師化）の変動、およびこれらに影響を及ぼす要因を分析することである。本研究では公的資料を分析の対象とした。都道府県は、教育の看護師化率と臨床の看護師化率、臨床の看護師化率と看護師学校卒業生数、臨床の看護師化と准看護師学校卒業生数をもとに、それぞれ4群分類された。

以下の結果を得た。(1)1974年から2006年まで、すべての都道府県において教育の看護師化が高まり、人口10万対の看護師学校卒業生数の増加が見られた。(2)教育の看護師化率は、各地域の医療の状況や、臨床の看護師化を反映しており、看護教育が地域の医療や看護の実態に影響されていると考えられた。

(3)臨床の看護師化率が高い群に看護師養成数が少ない地域が多い一方で、看護師養成数が多い群には臨床の看護師化率が低い地域が多かった。

II. ゴードン・W・プランゲ文庫所蔵検閲史料の分析による占領下日本の医療・看護の状況とGHQによる検閲の実情に関する研究

米国メリーランド大学図書館ゴードン・W・プランゲ文庫（以下、プランゲ文庫）には占領下日本において1945年から1949年に出版された刊行物とその検閲記録が所蔵されている。本研究の目的はGHQ文書（GHQ/SCAP Records）の公衆衛生福祉局に関する記録（PH & W Records）からは評価出来なかった、医療および看護に関するGHQの方針と実態を明らかにするとともに、当時の日本における医療・看護関係物の発刊状況を明らかにすることである。

2009年度は、新聞記事に焦点をあてて現地調査を行った。

III. 第二次世界大戦後の看護改革に関する研究

現在の看護の法律や教育制度の基礎は、連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）看護課により、占領下に築かれた。しかし、わが国の実情などに応じて様々な改変が行われている。GHQが行った看護の変革が現在までどのように変遷してきたかを、社会的な要因、アメリカの国立公文書館や日本の国会図書館などで収集した史料、GHQ関係者からのインタビューや書簡などの情報にもとづいて分析している。研究の目的は、GHQが理想とした看護の理想像と日本の実情とに乖離が生じた要因、GHQと日本側関係者がこれらの問題をどのように解決していったかを明らかにすることである。

本学の教育においては、「看護マネジメント」の講義の中で、研究方法と成果を紹介した。

「点検・評価」

看護情報管理学に関しては、最新の情報を更新し、研究を継続している。また、看護および看護教育の実態分析と、歴史研究により、看護政策に関する情報の収集分析を継続している。

講義において、これらの研究方法と成果を紹介し、学生に看護研究の必要性を伝えるとともに看護管理学および情報管理学分野の研究に対する興味を喚起するように努力している。

研究業績

I. 原著論文

- 1) 大石杉乃. 1974年から2006年における看護師・准看護師養成状況の地域差と経年的変化. 慈恵医大誌 2009; 124(5): 201-12.

III. 学会発表

- 1) 大石杉乃. 日本産婆看護婦保健婦協会支部結成と占領期に発行された看護の機関誌発行. 第29回日本看護科学学会学術集会. 千葉, 11月. [日看科学会講集 2009; 29回: 246]
- 2) 大石杉乃. プランゲ文庫史料による占領下日本における医療・看護の社会的活動(1). 第110回日本医史学会総会・学術大会. 佐賀, 6月. [日医史誌 2009; 55(2): 202]
- 3) 春日広美, 遠山寛子, 渡邊知映, 平尾真智子, 茅島江子, 大石杉乃, 櫻井美代子, 藤村龍子. 看護学教育でe-learningシステムができること-実習指導, 形成的自己評価の活用の実施から. 第29回日本看護科学学会学術集会. 千葉, 11月. [日看科学会講集 2009; 29回: 172]

成人看護学

教授: 藤野 彰子	がん看護学, 緩和ケア
教授: 藤村 龍子	クリティカルケア, 周手術期看護
教授: 高島 尚美	周手術期看護学, クリティカルケア
講師: 渡邊 知映	がん看護学, 化学療法とQOL

教育・研究概要

看護系の大学教育においては, 臨地実習は重要な学修方法であり, 患者を受け持ちながら看護の体験をするため, 学生は貴重な経験をすることができる。成人看護領域の実習は6単位(270時間)と実習時間数も多い。

そこで臨地実習の教育的意義を明らかにするために, すでに臨床で働いている大卒看護師について, 在学中の成人看護領域での臨地実習で得た重要な学びや経験を調査し, 今後の教育活動の基礎資料としたいと考えた。方法として, 看護系大学を卒業し, 臨床経験3年未満の看護師に対し面接調査を実施し, 質的帰納的分析をした。その結果, 実習中の看護過程の展開や患者との関わり方などの看護実践の経験の重要性が明らかになった。また臨床現場における

看護師を初めとする医療関係者や実習グループ内での人間関係調整能力, 自己の健康管理などの要素もあることがわかった。今後はこれらをさらにくわしく分析し, 教育内容に反映したいと考えている。

藤野は緩和ケア病棟に勤務する看護師のインタビューを通し, ケアリングタッチの重要性を明らかにしようとしているが, 本年度はすべてのデータの分析が終了し, 論文を作成している過程である。

高島は, 在院日数が短縮した状況下における消化器外科系病棟の看護管理者への全国調査結果を分析し現状を明らかにするとともに, 外来看護の現状や胃がんで手術を受けた患者のQOLを分析した。クリニカルパスの活用やセルフケア支援の工夫が実施されている一方で多忙さを極めており, 効果的なセルフケア支援等で看護の質を高める必要性を明らかにした。

渡邊は, 外来化学療法の適応拡大を受け, 外来化学療法看護の質向上のため, 外来化学療法看護の実態について全国調査を行った。また, がん治療に継続するリンパ浮腫に対する予防ケアが診療報酬化されたのに伴い, 現状と課題について全国調査を行い明らかにした。

「点検・評価」

成人看護学実習に求められるリスクマネージメント教育のあり方の検討から, 看護技術の内容を検討し, 点滴の管理, 救急蘇生, 心電図等を学内演習に取り入れ, また, 手術室, ICU, 血液浄化部等の臨地実習をも導入することで, 学生の看護技術の見学や体験が増加した。これは学生にとって意義があり本年度も継続している。看護学実習において, 学生に看護技術をできるだけ多く体験させるよう, 教員は努力し, 徐々に成果は上がっている。

また成人看護領域における臨地実習の学びの調査結果を活かした, 臨地実習の教育内容の検討も始めた。

昨年度は欠員であった准教授のポストを教授職で採用でき, クリティカル分野の教育と研究が充実した。

研究業績

I. 原著論文

- 1) 高島尚美, 五木田和枝. 在院日数短縮に伴う消化器外科系病棟における周手術期看護の現状と課題 全国調査による病棟看護管理者の認識. 日クリティカルケア看会誌 2009; 5(2): 60-8.
- 2) 渡部節子, 武田宜子, 高島尚美, 五木田和枝, 大重賢治. 本邦における人工股関節全置換術の術前皮膚準備方法と術後手術部位感染との関係. 日整外看会

誌 2009 ; 4 : 68-75.

- 3) 永田真弓, 高島尚美, 大賀明子, 田中奈津子, 西典子, 平田明美, 河原智江, 内山繁樹, 服部紀子, 渡部節子, 森山比路美, 藤波富美子, 野知由紀子, 大門幸代. 経験型臨地実習指導者研修会への参加による臨地実習教育に関する主体性の育成. 横浜看護学雑誌 2009 ; 2(1): 41-7.
- 4) 高島尚美, 五木田和枝, 濱田安岐子, 山田美穂, 渡部節子, 大澤栄子. 日帰り手術を受けた患者の症状マネジメントと患者教育. 横浜看護学雑誌 2009 ; 2(1): 33-40.
- 5) 五木田和枝, 高島尚美, 渡部節子, 菅野 洋, 山本勇夫, 伊豫田かなえ, 田中淳子, 大重賢治. 脳腫瘍患者の家族における健康関連 QOL 評価と関連要因に関する研究横浜看護学雑誌 2009 ; 2(1): 17-24.
- 6) Terui Y¹⁾, Mishima Y¹⁾, Sugimura N¹⁾, Kojima K¹⁾, Sakurai T¹⁾, Mishima Y¹⁾, Kuniyoshi R¹⁾, Taniyama A¹⁾, Yokoyama M¹⁾, Sakajiri S¹⁾, Takeuchi K¹⁾, Watanabe C, Takahashi S¹⁾, Ito Y¹⁾, Hatake K¹⁾ (Cancer Institute Hospital). Identification of CD20 C-terminal deletion mutations associated with loss of CD20 expression in non-Hodgkin's lymphoma. Clin Cancer Res 2009 ; 15(7) : 523-30.

II. 総 説

- 1) 渡邊知映. 看護と性 血液がんとセクシュアリティ. 日性科会誌 2009 ; 27(1) : 75-7.

III. 学会発表

- 1) 藤村龍子, 大島弓子, 松田美紀子. 診療報酬改定の動きと医療技術評価書作成 - エビデンスデータを活用した転倒・転落予防の看護介入を考える. 第15回日本看護診断学会学術大会. 福岡, 6月. [看診断 2009 ; 14(2) : 119]
- 2) 藤村龍子. クリテイカルケア領域のアセスメントと看護診断. 第15回日本看護診断学会学術大会. 福岡, 6月. [看診断 2009 ; 14(2) : 59]
- 3) 高島尚美, 屋宜譜美子 (湘南徳州大). 医学部学生の共同による地域の子どもの健康教育キャンプのプログラム評価. 福岡, 9月. 日本看護学教育学会第19回学術集会. 北見, 9月. [日看教会誌 2009 ; 19 (学術集会講演集) : 126]
- 4) 西井正造, 田部井正, 井上千鹿子, 高島尚美, 後藤英司. 医学生・看護学生の子どものコミュニケーション能力を養成するプログラムの成果. 第41回日本医学教育学会大会. 大阪, 7月. [医教育 2009 ; 40 (Suppl.) : 159]
- 5) 山田美穂, 高島尚美, 平井和恵, 濱田安岐子, 五木田和枝, 渡部節子. 胃がんで手術を受けた患者の術後

2ヵ月までの生活とセルフケア行動 (第2報). 第24回日本がん看護学会学術集会. 浜松, 2月. [日がん看会誌 2010 ; 24 (Suppl.) : 255]

- 6) 高島尚美, 山田美穂¹⁾, 平井和恵¹⁾, 五木田和枝¹⁾, 渡部節子¹⁾ (横浜市立大学), 野中麻衣子, 渡邊知映. 胃がんで手術を受けた患者の術後2ヶ月後までのQOLの変化 第2報. 第24回日本がん看護学会学術集会. 浜松, 2月. [日がん看会誌 2010 ; 24 (Suppl.) 253]
- 7) 小迫富美恵, 石垣靖子, 濱口恵子, 花出正美, 庄村雅子, 渡邊知映, 佐藤禮子. 日本がん看護学会がん看護技術開発特別委員会. がん術後リンパ浮腫に関する看護実践と提供体制に関する実態調査. 第24回日本がん看護学会. 浜松, 2月. [日がん看会誌 2010 ; 24 (Suppl.) 274]
- 8) 小迫富美恵, 石垣靖子, 濱口恵子, 花出正美, 庄村雅子, 渡邊知映, 佐藤禮子. 日本がん看護学会がん看護技術開発特別委員会. 日本における外来化学療法看護実践の現状と課題. 第24回日本がん看護学会. 浜松, 2月. [日がん看会誌 2010 ; 24 (Suppl.) 273]
- 9) 小迫富美恵, 石垣靖子, 庄村雅子, 渡邊知映, 濱口恵子, 花出正美, 佐藤禮子. 日本がん看護学会がん看護技術開発特別委員会. 外来がん化学療法をうける患者・家族へのケアの標準化に向けた「外来がん化学療法看護ケアの手引き」の開発. 第24回日本がん看護学会. 浜松, 2月. [日がん看会誌 2010 ; 24 (Suppl.) 272]
- 10) 若澤弥生. 新人看護師の準夜帯勤務における業務の特徴～臨床経験10か月後の行動～. 第13回日本看護管理学会年次大会. 浜松, 8月.

IV. 著 書

- 1) Husted GL, Husted LH 著, 藤村龍子, 樽井正義監訳. 臨床実践のための看護倫理: 倫理的意思決定へのアプローチ. 東京: 医学書院, 2009.

V. その他

- 1) 野中麻衣子, 林 良美¹⁾, 諫山由紀枝¹⁾, 今西恭子¹⁾ (九州大学病院). 【新人ナースのための夜勤で見るバイタルサインと神経症状】見過ごしてはいけない危険なバイタルサインと神経症状 頭蓋内圧亢進症状. Brain Nurs 2009 ; 25(6) : 611-6.

老 年 看 護 学

教 授 : 櫻井美代子 老年看護学
准教授 : 伊達久美子 老年看護学

教育・研究概要

I. 認知症高齢者の家族心理に関する研究

認知症の親を施設に預ける決心をするまでの家族の心理的变化を明らかにするために、都市部と農村部子の家族（子ども）介護者10名に行ったインタビュー結果をまとめた。

親の症状悪化に伴い施設入所を模索している時の家族の心理状態は、心身疲労による限界感と社会規範による使命感や罪悪感との葛藤から自責の念で苦しむが、徐々に親との親密な時間を共有することによって親の人生に思いを馳せるようになっていた。この「親子関係の呼び起こし」体験によって家族はそれまでの罪悪感が薄まり、親と自分の生き方を尊重するためには施設入所も必要であるとの認識に変化していた。この結果は日本老年看護学会第14回学術集会と第10回日本認知症ケア学会大会に発表、また科学研究費補助金研究成果報告書として提出した。

II. 高齢者の生活習慣と健康に関する研究

伊達は、高齢者の生活習慣と健康との関連および健康行動変容に関する研究を継続している。本年度は高齢者の健康維持増進を目的とした調査を、科学研究費補助金の助成を受けて開始した。調査の主な目的は、高齢者が「家庭用健康ゲーム・ソフト」を利用することの有用性と安全性を相対的に評価し、新たな健康づくりのプログラムを提案することである。本年度は「家庭用健康ゲーム・ソフト」の有用性および安全性に関する評価指標を文献検討と予備調査により検討した。

〔点検・評価〕

これまで3年次の学内演習では褥瘡予防のケアを重点的に実施してきたが、学生は臨地実習場面で褥瘡患者のケアを体験する機会が少ないため、今年は学内演習に「褥瘡発生時のケア」を加えた。卒業時の到達技術項目を達成させるためにも学内演習を充実させたことは評価できる。研究Iについては、研究成果の学会発表にとどまらず論文にまとめて発表する予定である。研究IIについては、予備調査により有用性と安全性の評価指標の要素を抽出することができた。次年度は「家庭用健康ゲーム・ソフト」を高齢者が利用する際の基準、特に説明方法や利用上の安全対策について再検討した後、本調査を実施する予定である。

研究業績

III. 学会発表

- 1) 櫻井美代子, 田代和子. グループホーム入所を決断するまでの家族介護者の心理的变化. 日本老年看護学会第14回学術集会. 札幌, 9月.
- 2) 櫻井美代子, 田代和子. 認知症対応型グループホームを選択する家族の思い～都市部と農村部との比較から～. 第10回日本認知症ケア学会. 東京, 10月.

IV. 著書

- 1) 伊達久美子. 第8章 経管栄養と中心静脈栄養の管理と指導. 中村美知子, 長谷川恭子編. わかりやすい栄養学: 臨床・地域で役立つ食生活指導の実際. 第3版. 東京: ヌーヴェルヒロカワ, 2009. p.249-74.

精神看護学

教授: 川野 雅資

講師: 林 世津子

教育・研究概要

精神看護学教育では、講義と演習、そして実習が結びつくように再構築して2年目になった。具体的には、1年次の概論では、精神保健の概念と最近のメンタルヘルスの課題について、2年次のメンタルヘルスケアⅡ-1では、精神科医の講義と看護の講義をリンクして、精神疾患患者の対象理解に焦点化した。3年次のメンタルヘルスケアⅡ-2では、実習で活用するコミュニケーション技術、人間関係論、独自に実習病院と作成したDVDを活用した看護過程の展開とした。実習に無理なく導入できることを目指した。総合実習では、より深い精神看護の実際を行うように実習内容と方法を改良した。

研究は、これまで行っていた神奈川県下における児童・青年精神医療のネットワークについてまとめ、第2回日本地域連携精神看護学研究会を開催し、そこで発表した。更に、日本とタイにおける地域で暮らす精神障害者の医療と生活に関する比較研究について、東京都板橋区・豊島区・練馬区における児童・青年精神医療について、精神看護における基礎教育と専門教育で求めるコミュニケーション技術について、の研究を進める下準備を行った。

〔点検・評価〕

精神看護学では、教育活動の見直しに取り組んで2年目になり、おおよその改善が図られ、後一年で構成的な教育内容が完成する。昨年度作成した

DVD教材を授業で様々な活用した。その結果、学生の実習内容の向上、実習病院との結びつきが強固になったと考えられる。授業終了後の学生の意見、評価を翌年度に生かす取り組みをしているので、継続する。来年度は更に、演習と実習の関連を強くし、新しい時代に即応した教材開発にも取り組みたい。

研究活動は、一貫して精神看護学の中心課題に取り組んでいる。研究活動からの財産を学生の教育に反映できるように来年度に応用したい。次年度に向けてこの方向で継続することが肝要である。

研究業績

I. 原著論文

- 1) 一ノ山隆司, 村上 満, 舟崎起代子, 牧野かおる, 明神一浩, 上野栄一, 川野雅資. 幻聴に苛む患者の自己対処行動を支えるための心理教育的アプローチ. 共創福祉 2009; 4(1): 1-10.

II. 総 説

- 1) 川野雅資. 川野雅資のいただいた言葉 その④「少し前に相談すること」. 臨看 2009; 35(5): 802.
- 2) 舟崎起代子, 一ノ山隆司, 川野雅資, 高野悦子, 上平悦子, 上野栄一. 精神臨床看護検討レポート「患者の安寧は看護師の言葉だけではない」ことの経験知 自己の癒し体験をケアに生かすケアリング. 臨看 2009; 35(5): 811-5.
- 3) 川野雅資. 川野雅資のいただいた言葉 その⑤「言えない」. 臨看 2009; 35(6): 942.
- 4) 岩浅友美, 今井真紀, 清水洋子, 川野雅資. 精神臨床看護検討レポート アニマルセラピーにおける看護の可能性 会話の少ない統合失調症患者の自発的な会話や行動の変化. 臨看 2009; 35(6): 956-62.
- 5) 川野雅資. 川野雅資のいただいた言葉 その⑥「人とのつながり」. 臨看 2009; 35(7): 1074.
- 6) 田中綾子, 川野雅資. 集中治療室におけるケアリングエレメントの探求 患者・看護師の捉える「ケア」 「こころ」からケアリングをみつける. 臨看 2009; 35(7): 1097-108.
- 7) 川野雅資. 川野雅資のいただいた言葉 その⑦「家族と考える」. 臨看 2009; 35(8): 1248.
- 8) 川野雅資. 川野雅資のいただいた言葉 その⑧「言葉にしなくてはわからない」. 臨看 2009; 35(9): 1378.
- 9) 千 英樹, 一ノ山隆司, 川野雅資. 精神臨床看護検討レポート 統合失調症患者の誰にも表現することのできない心の叫びに対する援助 大声で叫べる空間を提供して. 臨看 2009; 35(9): 1394-9.
- 10) 川野雅資. 川野雅資のいただいた言葉 その⑨「欲をかいてはいけない」. 臨看 2009; 35(10): 1548.
- 11) 川野雅資. 川野雅資のいただいた言葉 その⑩「自己意識」. 臨看 2009; 35(11): 1678.
- 12) 森泉保子, 小林和美, 川野雅資. 精神臨床看護検討レポート (case7) 認知症の妻を介護する夫の実情 夫の『語り』から男性介護者支援を考える. 臨看 2009; 35(11): 1689-94.
- 13) 川野雅資. 川野雅資のいただいた言葉 その⑪「Yes or No」. 臨看 2009; 35(13): 2066.
- 14) 宮原 希, 小林恵子, 春原亜矢, 川野雅資. 精神臨床看護検討レポート (case8) リラックス効果のある音楽・家族の声による聴覚刺激 感情表出の乏しい患者に対するかかわり. 臨看 2009; 35(13): 2078-83.
- 15) 川野雅資. 川野雅資のいただいた言葉 最終回「嬉しいこと」. 臨看 2009; 35(13): 2204.
- 16) 一ノ山隆司, 後藤美沙江, 舟崎起代子, 川野雅資, 村田美津代, 吉田 誠, 明神一浩, 上野栄一. 精神臨床看護検討レポート (case9) 統合失調症患者の援助にフットケアを取り入れた介入効果とセルフケアレベルの変化について. 臨看 2009; 35(14): 2215-24.
- 17) 京谷和哉, 一ノ山隆司, 舟崎起代子, 川野雅資. 精神臨床看護検討レポート (case10) ブラックコーヒーの飲用を終末期がん患者ケアに取り入れた有効性 対応困難な場面にプロセスレコードを活用し, 対人関係の改善につなげた事例. 臨看 2010; 36(2): 251-7.
- 18) 掛川葉子, 佐々木喜代, 佐藤英明, 川野雅資. 精神臨床看護検討レポート (case11) 精神科患者の訪問看護の意義と意味に関する検討 訪問看護利用者へのアンケート結果から. 臨看 2010; 36(3): 370-3.
- 19) 川野雅資. 巻頭言 看護とサイコセラピー. 日サイコセラピー会誌 2009; 10(1): 2.
- 20) 川野雅資. 【児童・思春期精神看護の臨床実践】〈特集にあたって〉いま, 児童・思春期の精神看護に求められていること. 小児看護 2009; 32(7): 1155-6.
- 21) 川野雅資. 【児童・思春期精神看護の臨床実践】看護と地域による支援の実際 支え手の家族を支援する看護. 小児看護 2009; 32(9): 1193-7.
- 22) 川野雅資. 【ナースのメンタルヘルス事情最前線 あなたの“元気”が新しい患者ケアを生み出す!】元気なエネルギーが満ちあふれるとき. ナーシング 2009; 29(6): 79.
- 23) 安部めぐみ, 星 景子, 野中麻衣子, 川野雅資. 【ナースのメンタルヘルス事情最前線 あなたの“元気”が新しい患者ケアを生み出す!】Talk Session 5年目のナース 元気に生き生きと働く. ナーシング 2009; 29(6): 88-91.
- 24) 志築麻里子, 栗田美紀, 坪内美佳, 川野雅資. 【ナースのメンタルヘルス事情最前線 あなたの“元気”が新しい患者ケアを生み出す!】Talk Session 10年目

の先輩ナースから5年目ナースへのエール. ナーシング 2009; 29(6): 92-5.

- 25) 川野雅資. 【6つの事例からあなたらしい「やり方」がみえてくる マンガでわかる「困った患者さん」対応術】「困った患者さん」といい関係をつくれる看護師とは. ナーシング 2009; 29(14): 94-5.

Ⅲ. 学会発表

- 1) 佐藤和子, 久保恭子, 川野雅資, 田崎智恵子. 児童精神医療に対する神奈川県内の小児系クリニックの診療状況と課題. 第35回日本看護研究学会学術集会. 横浜, 8月.
- 2) 川野雅資. 会長講演. 第2回日本地域連携精神看護学研究会. 東京, 12月.

Ⅳ. 著 書

- 1) 川野雅資. 東京女子医科大学病院看護部神経精神科編. 精神科臨床看護技術の展開. 東京: 中央法規出版, 2009.
- 2) 吉松和哉, 小泉典章, 川野雅資編. 精神看護学Ⅰ: 精神保健学. 第5版. 東京: ヌーヴェルヒロカワ, 2010.
- 3) 川野雅資編. 精神看護学Ⅱ: 精神臨床看護学. 第5版. 東京: ヌーヴェルヒロカワ, 2010.
- 4) 川野雅資. 14. ジーン・ワトソン: 21世紀の看護論. 小林富美, 樋口康子, 小玉香津子他著. 現代看護の探求者たち: 人と思想. 増補第2版. 東京: 日本看護協会出版会, 2009. p.251-81.
- 5) 川野雅資監訳. 地域精神看護の実際. 東京: 世論時報社, 2009.
- 6) 川野雅資編. 実践 英・米・日3カ国の地域精神看護: 地域連携精神看護学研究. 東京: 世論時報社, 2009.

Ⅴ. その他

- 1) 川野雅資, 一ノ山隆司, 石川純子, 石川幸代原案監修. ビデオと共に学ぶ精神看護学シリーズ: 精神病院の実際: Vol.1. MS フューチャーデザイン, 2009.
- 2) 川野雅資, 稲木順, 筒井恵里子. (DVD) 10日でわかるあなたのこころ: 第1日目: うつの理解, 第2日目: うつの原因, 第3日目: うつの症状と予後: ストレスチェック表. 水晶院, 2009.
- 3) 川野雅資監修. ストレス診断! 心のチェック (http://www.genic-net.com/stress_lisk/sys/check.cgi). 2009.

小 児 看 護 学

教授: 濱中 喜代

准教授: 長 佳代

教育・研究概要

Ⅰ. 小児看護の現場で生き生き働き続けるための教育支援プログラムの開発とその検証

継続研究として小児看護の現場でいきいきと働き続けるための卒前・卒後に行う教育支援プログラムを開発とその検証のための研究をさらに進め, 地方都市で研修会を実施し, また研修会の参加者の追跡調査を行い, リアリティショックに効果があることを考察した。

Ⅱ. 子どものヘルスプロモーション促進への基礎教育における外来看護実習と外来看護の構築に関する研究

科研の連携研究者として, これまでの研究の成果を学会に発表するとともに, 日本外来小児科学会でワークショップを開き, 看護プログラム(「診察ってなに」「吸ってなに」「点滴ってなに」「採血って何」等)の普及につとめた。報告書の作成に着手した。

Ⅲ. 難病の子どもをもつ家族の支援システム構築に関する研究

これまでに行ってきた難病の子どもへの家族への面接のデータをまとめ, 難病の子どもをもつ家族の支援について分析・考察した。

Ⅳ. 小児慢性腎不全患者の社会的成長過程の実際と情報提供による支援策の構築

長は, 小児慢性腎不全患者が社会的成長の過程で直面する問題と対処のありようをあきらかにし, 患児・家族へのよりよい支援体制構築のための基礎的知識とすることを目的として行った研究の成果のうち, 患児本人から得た結果の一部を関連学術集会において発表した。

「点検・評価」

Ⅰの研究については継続でき, 教育支援プログラムの実践の1年後の評価を行うことができた。

Ⅱにおいては, 科研費の最終年度になり, データ収集の結果を集約して報告書作成にとりかかることができ, 一段落したといえる。外来看護への応用に

向けた新たな取り組みを計画中である。

Ⅲの研究は、データ収集から遅れたものの昨年に続き、面接内容の分析を行い、関連学術集会において発表することができた。

Ⅳの研究は、研究結果の一部を関連学術集会において発表した。今後、研究成果を学会誌に発表予定である。

研究業績

I. 原著論文

- 1) 長 佳代, 小児腎移植後患者の学校生活に関する母親の思いと働きかけ, 日小児腎不全会誌 2009; 29: 249-51.

Ⅲ. 学会発表

- 1) 濱中喜代, 難病の子どもを在宅で養育している両親の語り: 家族支援システム構築への示唆, 日本家族看護学会第16回学術集会, 高山, 9月. [日本家族看護学会第16回学術集会講演集]
- 2) 中村由美子 (青森県立保健大学), 児玉千代子 (東海大学), 濱中喜代他, 小児看護の現場で働き続けるための教育支援プログラムの開発: 地方都市における卒業前研修会の効果と課題, 日本小児看護学会第19回学術集会, 札幌, 7月. [日本小児看護学会第19回学術集会講演集 2009: 193]
- 3) 日沼千尋 (東京女子医科大学), 濱中喜代, 児玉千代子 (東海大学) 他, 小児看護の現場で働き続けるための教育支援プログラムの開発: 卒前研修受講者の卒業後適応状況と研修の影響, 日本小児看護学会第19回学術集会, 札幌, 7月. [日本小児看護学会第19回学術集会講演集 2009: 194]
- 4) 及川郁子 (聖路加看護大学), 長谷川桂子 (岐阜県立大学), 川口千鶴 (前自治医科大学), 濱中喜代, 山本美佐子 (四日市看護医療大学) 他, 子どもと家族のヘルスプロモーションに向けた外来での看護プログラム「診察ってなに?」の実践, 日本小児看護学会第19回学術集会, 札幌, 7月. [日本小児看護学会第19回学術集会講演集 2009: 257.]
- 5) 長 佳代, 小児慢性腎不全患者が学校生活において体験した問題と対処, 第31回日本小児腎不全学会, 弥彦村, 10月. [第31回日本小児腎不全学会総会・学術集会プログラム抄録集]
- 6) 荒川まりえ, 看護師の子どもへの死に関する捉え方: 亡くなりゆく子どもへの看護の体験から, 日本小児看護学会第19回学術集会, 札幌, 7月. [日本小児看護学会第19回学術集会講演集 2009: 179.]

母性看護学

教授: 茅島 江子 女性の健康と看護ケア
講師: 細坂 泰子 周産期ケア, DOHaD, 母乳

教育・研究概要

女性のライフスタイル各時期における様々な健康問題について研究し、母性看護における看護援助のあり方について考察した。

I. 青年期における月経随伴症状と心身の特性との関連

青年期の女性 323 名を対象に、月経随伴症状に関連する心身の因子を明らかにすることを目的に、体型、生活習慣、健康観や性役割の認識等との関連について分析した。対象の約 8 割が普通体型であったが、半数は太っていると認識していた。月経随伴症状 (MDQ 尺度) との関連を分析した結果、高校生の月経前期では BMI ($p < 0.05$), 主観的健康統制感 (HLC 尺度) の家族因子 ($p < 0.05$), 偶然的因子 ($p < 0.05$) が、月経中期には HLC 尺度の偶然的因子 ($p < 0.05$) が有意に関連していた。大学生では月経前期および月経中期に否定的月経観 ($p < 0.01$), セルフケア ($p < 0.05$), 性役割パーソナリティ (BSRI 尺度) のアンドロジニー ($p < 0.01$) が有意に関連していた。

II. 看護におけるセクシュアリティに関する研究の現状と動向

看護におけるセクシュアリティに関する研究について、1985 年～2009 年 7 月の文献を検討した。看護の対象の理解、看護師・看護学生の理解・態度、様々な患者 (利用者) における性的困難等についての解説や研究が行われていたが、少数例の事例検討が多く、ケアの評価に関する研究はほとんどみられなかった。

Ⅲ. 助産ケアの質評価

「医療機関における助産ケアの質評価－自己点検のための評価基準－第 2 版」を用いて、日本看護協会助産師会員における助産ケアの質について実態調査した。その結果、経験年数や分娩介助件数の増加とともに助産ケアの自己評価のレベルは上昇したが、妊娠期のケアの自己評価は全体的に低く、混合病棟や看護系大学卒の自己評価が低い傾向にあった。

IV. 大学教員の満足度と関連する要因の調査

母性看護学実習における大学教員の満足度とそれに関する要因について、全国の4年制大学の母性看護学教員を対象に、看護系大学教師の実習教育に対する教師効力尺度、職業性ストレス簡易調査票を用いた調査を行っている。

〔点検・評価〕

日本女性はおよそ8-9割が月経随伴症状を抱えている。月経に対する肯定観を強めることはその女性の健康を守ることであり、重要な課題である。今回の調査から月経関連因子は月経症状だけでなく、その対象をとりまく様々な事柄を考慮して健康問題を解決しなければならないことが示唆された。今後も女性の健康問題をより向上させるために、研究を続けていく必要がある。

看護では、セクシュアリティに関する研究は全体的に少なく、特に、性に密接に関連してケアを行う母性・助産領域の研究が少なかったため、今後、さらに研究していく必要がある。助産ケアの質は、経験年数とともに向上していたが、病院間、養成校間の格差もみられたので、助産師教育や臨床研修の充実など、今後も検討していく必要がある。

大学教員の実習満足度とそれに関連する要因の調査は、現在調査中であり、今後データ集計・分析を進めていく予定である。

研究業績

I. 原著論文

- 1) 抜田博子, 谷口千絵 (日本赤十字看護大学), 恵美須文枝 (愛知県立大学), 周産期ケアにおける助産師の手袋着用状況と個人の属性との関連, 日助産会誌 2009; 23(2): 208-16.

II. 学会発表

- 1) Tsumeda K (Seirei Hamamatsu General Hospital), Ishikawa N (Aiku Hospital), Kayashima K, Kudo T (Jichi Medical University Hospital), Maeyama N (St. Marianna University School of Medicine Hospital), Endo T (Kyoto Tachibana University). Quality evaluation of the midwifery care provided by hospital midwives: Actual status and desirable supports. 1st China-Japan-Korea Academic Exchange Conference on Nursing, Beijing, Aug.
- 2) 春日広美, 遠山寛子, 渡邊知映, 平尾真智子, 茅島江子, 大石杉乃, 櫻井美代子, 藤村龍子. 看護学教育でe-learningシステムができること-実習指導, 形成

的自己評価での活用の実際から-, 第29回日本看護科学学会学術集会, 千葉, 8月.

- 3) 村嶋幸代(東京大学), 麻原きよみ(聖路加看護大学), 安齋由貴子(宮城大学), 江幡芳枝(国際医療福祉大学), 岡本玲子(岡山大学), 奥山則子, 茅島江子, 北川真理子(名古屋市立大学), 佐伯和子(北海道大学). 保健師・助産師教育の将来像. 第29回日本看護科学学会学術集会, 千葉, 8月.
- 4) 茅島江子, 笹井靖子, 遠山寛子, 抜田博子, 細坂泰子. 看護におけるセクシュアリティに関する研究の現状と動向. 第6回慈恵看護研究会, 東京, 3月.

III. その他

- 1) 爪田久美子(聖隷浜松病院), 茅島江子, 工藤祝子(自治医科大学附属病院), 石川紀子(愛育病院), 前山直美(聖マリアンナ医科大学病院). 助産師の質向上のための「医療機関における助産ケアの質評価(第2版)」の普及活動報告. 平成21年度職能集会検討資料(日本看護協会) 2009; 83-109.

地域看護学

教授: 奥山 則子 地域看護学
准教授: 嶋澤 順子 地域看護学

教育・研究概要

地域看護学領域では、現在大きく2つの研究テーマに取り組んでいる。その一つは、地域看護学教育に関するもので、今年度も保健師教育の卒業時の到達度や教育カリキュラムについて他大学の教員と共同研究を実施した。二つめは、在宅精神障害者に対する行政保健師の援助方法に関する研究である。今年度は、市町村の障害福祉担当課に所属する保健師の取り組み内容を調べ、その援助方法を実証的に明らかにした。

〔点検・評価〕

1. 厚生労働省から項目が明示された保健師基礎教育機関卒業時における技術項目と到達度について、また、現状の保健師教育について調査・検討し、保健師教育の課題や問題点を整理すると共に今後のあり方について第19回日本看護学教育学会で報告した。今回の研究により、保健師基礎教育における課題は明らかになったがその問題を解決するための教育システムを改変することは難しい。今後もさらにそれらの教育課題や技術の到達のための具体的な教育の方法について検討していく予定である。

4年次の実習では、平成21年度から市町村での実習1週間が実施されるようになった。学生の実習での学びをより深めるために、実習内容・記録方法・実習評価方法の見直しを行い学習に取り入れた。評価は、厚生労働省が明示した保健師基礎教育機関卒業時における技術項目と到達度に照らし合わせ実施した。

2. 在宅精神障害者に対する行政保健師の援助方法に関する研究は、今年度は、在宅精神障害者の自立を促す行政保健師の援助の構造を明らかにし第12回日本地域看護学会学術集会や千葉看護学会誌に報告した。今後は、法改正により変化してきている市町村の障害福祉担当課に所属する保健師の取り組み内容を調べ、その援助方法を実証的に明らかにするために調査を継続中である。

研究業績

I. 原著論文

- 1) 嶋澤順子. 在宅精神障害者の自立を促す行政保健師の援助の構造. 千葉看会誌 2009; 15(1): 35-42.
- 2) 奥山則子. 連載: 保健師助産師看護師法の改正と保健師教育の展望(6)保健師教育のミニマムリクワイアメンツ(最小必要限の教育内容)とは. 日公衛誌 2010; 57(2): 134-43.
- 3) 麻原きよみ¹⁾, 大森純子¹⁾, 小林真朝¹⁾(¹聖路加看護大学), 平野優子²⁾, 鈴木良美(東邦大学), 荒木田美香子(国際医療福祉大学), 大木幸子(杏林大学), 岡本玲子³⁾, 奥山則子, 海原逸子(横浜市), 須藤裕子(小鹿野町), 長江弘子³⁾(³岡山大学), 宮崎美砂子(千葉大学), 村嶋幸代²⁾(²東京大学). 保健師教育機関卒業時における技術項目と到達度. 日公衛誌 2010; 57(3): 184-93.

III. 学会発表

- 1) 嶋澤順子. 在宅精神障害者の自立を促す行政保健師による援助の構造. 日本地域看護学会第12回学術集会. 千葉, 8月.
- 2) 安齋由貴子(宮城大学), 岡本玲子(岡山大学), 佐伯和子(北海道大学), 奥山則子, 荒賀直子(順天堂大学), 村嶋幸代(東京大学). 学士課程における保健師教育の問題点と積み上げ教育の必要性(1)保健師の技術項目の到達度から. 日本看護学教育学会第19回学術集会. 北見, 9月.
- 3) 岡本玲子(岡山大学), 佐伯和子(北海道大学), 安齋由貴子(宮城大学), 奥山則子, 荒賀直子(順天堂大学), 村嶋幸代(東京大学). 学士課程における保健師教育の問題点と積み上げ教育の必要性(2)看護師教育に必要な地域看護学の内容. 日本看護学教育学会第

19回学術集会. 北見, 9月.

- 4) 佐伯和子(北海道大学), 岡本玲子(岡山大学), 安齋由貴子(宮城大学), 奥山則子, 荒賀直子(順天堂大学), 村嶋幸代(東京大学). 学士課程における保健師教育の問題点と積み上げ教育の必要性(3)積み上げ1年以上の保健師教育の内容. 日本看護学教育学会第19回学術集会. 北見, 9月.
- 5) 安齋由貴子(宮城大学), 嶋澤順子, 芳我ちより¹⁾, 山崎洋子¹⁾(¹山梨大学). 特定保健指導を活用した生活習慣病予防における保健師の援助方法. 第68回日本公衆衛生学会総会. 奈良, 10月.

IV. 著書

- 1) 奥山則子. V. 臨床における心の健康と不健康 4. さまざまな状態における心の健康 7) 在宅ケアと心の健康. 吉松和哉, 小泉典章, 川野雅資編. 精神看護学Ⅰ: 精神保健学. 第5版. 東京: ヌーヴェルヒロカワ, 2010. p.181-6.